

■After 建築名称 下段: 英語名	正田醤油本社屋 Shoda Soy Sauce Headquarters		
建築用途	大分類 事務所	小分類 本社事務所	
改修設計者	マヌファット(正田亨+正田智子)、堀之内建築事務所、構造: 山辺豊彦		
所在地	群馬県館林市栄町3-1	<a href="#">URL</a> <a href="#">Google Map</a>	
改修年	2004年		After 外観
建築規模	構造規模: 木造2階建、一部RC造、S造。延床面積: 2659.20㎡		撮影者 提供者 撮影: 桐原武志 2023年
掲載書誌	住宅建築2005年2月号		
賞・選定	公益社団法人日本建築士会連合会 2005年 日本建築士会連合会 賞優秀賞		
■Before 建築名称	正田醤油 八号蔵		概要 before
建築用途	大分類 生産施設	小分類 醸造蔵	
■写真 Before	改修前の八号蔵内観	After 多目的ホール	After エントランスホールから見たアトリウム
			
撮影者 提供者	提供: 正田亨+正田智子	撮影者 提供者 撮影: 桐原武志 2023年	撮影者 提供者 撮影: 桐原武志 2023年
■リノベーション内容	キーワード 用途変更、外観保存、補強	内容 大正初期に醤油醸造蔵として建てられた大きな蔵を、小屋組を保存し現代的なオフィスに転用した事例。当初、正田醤油という老舗企業の創業130周年事業として本社新築計画が持ち上がったが、既存のトラスによる小屋組が原形をとどめていたために保存転用されることとなった。 転用にあたっては建築基準法の適用が免れず、構造上の課題、防火区画や内装不燃等の法的課題、空調など設備上の課題があったが、すべて建築家を中心としたネットワーク力で克服した。 新たなオフィス空間は既存の小屋組がそのまま現され、伸びやかな空間が実現されている。屋根にはガラスのトップライトが設けられ、明るく快適なオフィス環境が形成された。大空間の空調には、フロアフローという床から温風がじわりと噴き出す方法が採用された。 外壁は水に強い土佐漆喰が採用され、屋根は既存瓦を一部再利用している。大工、左官、瓦葺きなどの伝統技能を持った職人の力が結集した事例である。	
■備考	隣接する旧六号蔵は市民に開放されたギャラリーや集会施設、旧店舗は記念館に活用されている。 右写真は、柱根継ぎ部分(追掛大柱をアレンジした接合) 正田醤油本社屋についての設計者によるホームページ: <a href="http://kitanokisekkei.com/wp/ss/">http://kitanokisekkei.com/wp/ss/</a>		
■作成者 氏名/所属	桐原武志、柳沢伸也/JIA再生部会		管理者 記載 SY-032